科目名	国際コミュニケーション			ナンバリング	RLA112	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	前期集中	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	小池久恵	担当教員	西村康平、ティモシー・クック				

授業の概要	グローバル化が目まぐるしく進行する現代において、言葉を用いてのコミュニケーションについて幅広い視野を培うこと目的とする。具体的には、第二言語習得および英語教育、英語学、英米文化および文学等に関しての基礎的な内容を取り上げ、国際コミュニケーションメジャーの様々な科目の履修を開始するにあたって知っておくべき考え方を養う。	
到達目標	国際コミュニケーションメジャーに関連する代表的な分野についての基礎的な知識、視点を修得し、教養学部における国際コミュニケーションメジャーの学びに関連する問題やテーマを自ら見出せるようになることを到達目標とする。	
学習のアドバイス （勉強方法、履修に必要な予備知識など）	毎回テキスト（もしくは資料）の講義に該当する範囲を読み、概要を理解したうえで授業に臨むこと。 講義で学んだ知識を整理して復習し、自分自身の英語の学びに反映させること	
ディプローマポリシーとの関連	【教養学部　地域教養学科のディプロマポリシー】	
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル（合格ライン）の目安	理想的な到達レベルの目安
第二言語習得および英語教育、英語学（発音・単語・文構造）、英米文化および文学等に関しての基礎的な内容を理解し、簡潔に説明することができる。	第二言語習得および英語教育、英語学（発音・単語・文構造）、英米文化および文学等に関しての基礎的な内容を理解し、具体的な例を挙げながら議論できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
授業態度・授業への参加				○	○	○	20%
小テスト・授業内タスク	○	○	○				40%
宿題・授業外レポート	○	○	○				40%

課題、評価のフィードバック	授業内外の課題（リフレクションシートやレポート、小発表等）については随時評価・フィードバックを行う。それらに授業態度・参加の姿勢（発言や協同学習への貢献等）を含め、最終評価とする。

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第１回	オリエンテーション	国際コミュニケーションに関連する分野の紹介、「第二言語習得理論と英語教育」分野の紹介	
	第2回	第一言語習得と第二言語習得	第一言語習得と第二言語習得のメカニズム、両者の関係を紹介する。	
	第３回	第二言語習得の鍵（1）	年齢要因、バイリンガリズム、適性について説明する。	
	第４回	第二言語習得の鍵（2）	学習環境、動機付け、習得までの道のりについて説明する。	
	第５回	「第二言語習得理論と英語教育」分野のまとめ	第２回から第４回までの内容を振り返り、自身の英語学習やこれからの英語教育について考え、グループで共有する。	
	第６回	英語学(1)：英語学とは何か	英語を言語学的な分析の対象として捉える意義、語学英語との違い等について理解する。	
	第７回	英語学(2)：英語の音声・音韻構造	英語の音体系、韻律構造などの発音の特徴について、基本事項を理解する。	
	第８回	英語学(3)：英語の単語構造	英語の複合語形成、派生、屈折などの単語の構造について、基本事項を理解する。	
	第９回	英語学(4)：英語の文構造	英語の語順、統語規則などの文の構造について、基本事項を理解する。	
	第１０回	英語学(5)：まとめ	第6回から第9回の講義内容について振り返り、確認テストを行う。	
	第１１回	イギリスの文化	イギリスを構成する4つの地域（イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランド）の歴史・文化的風土を理解する。	
	第１２回	イギリスの文学（1）	シェイクスピアの人と作品、およびシェイクスピアが後世に与えた影響について考える。	
	第１３回	イギリスの文学（2）	代表的小説家チャールズ・ディケンズを例に文学と社会の関係について考える。	
	第１４回	イギリス・アメリカの都市文化	エンタテインメントシティ、ロンドンとニューヨークの演劇文化、映像産業について考える。	
	第１５回	まとめ	これまでの学習内容を振り返り、国際コミュニケーションメジャーに関連する基礎的な内容を学ぶ意義を考え、今後の学びにいかに反映させるかについてまとめる。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方		授業内外の課題（リフレクションシートやレポート、小発表等）については随時評価・フィードバックを行う。それらに授業態度・参加の姿勢（発言や協同学習への貢献等）を含め、最終評価とする。		
授業外学習の指示		毎回テキスト（もしくは資料）の講義に該当する範囲を読み、概要を理解したうえで授業に臨むこと。（90分程度） 講義で学んだ知識を整理して復習し、自分自身の英語の学びに反映させること。（90分程度） （授業外学習時間：　毎週　　180　　分）		
教科書		教科書は使用しない。プリントを配付する。		
参考書		英語学（第6回～10回、西村担当）：『First Steps in English Linguistics: 英語の言語学の第一歩』 影山太郎 他著、くろしお出版、ISBN: 978-4-87424-277-3		
参考URLなど				
その他		英語学（第6回～10回、西村担当）：授業に関するアナウンスや課題とした練習問題の解説・補足についてはmanab@IMUを通して行う。		